

林野庁 令和3年度林業イノベーションハブ構築事業  
 林業イノベーションハブセンター（森ハブ）  
 第3回専門委員会 議事録

作成日：2021年11月4日

日時	2021年11月4日 13:30～16:30																
場所	丸の内二重橋ビルディング トーマツ会議室 所在地：東京都千代田区丸の内 3 2 3																
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北海道視察についてテーマ別の調査進捗報告について</li> <li>2. テーマ別の調査進捗報告について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新技術/総合戦略</li> <li>(2) 機械開発</li> <li>(3) 地域林業政策</li> <li>(4) イノベーションエコシステム</li> <li>(5) 知的財産</li> </ol> </li> <li>3. 話題提供             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 農林水産省地球温暖化対策計画について</li> </ol> </li> </ol>																
資料	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">資料1</td> <td>北海道視察報告</td> </tr> <tr> <td>資料2-1</td> <td>テーマ1 新技術/総合戦略</td> </tr> <tr> <td>資料2-2</td> <td>テーマ2 機械開発</td> </tr> <tr> <td>資料2-3</td> <td>テーマ3 地域林業政策</td> </tr> <tr> <td>資料2-4</td> <td>テーマ4 イノベーションエコシステム</td> </tr> <tr> <td>資料2-5</td> <td>テーマ5 知的財産</td> </tr> <tr> <td>資料3</td> <td>農林水産省地球温暖化対策計画について</td> </tr> <tr> <td>資料4</td> <td>今後のスケジュールについて</td> </tr> </table>	資料1	北海道視察報告	資料2-1	テーマ1 新技術/総合戦略	資料2-2	テーマ2 機械開発	資料2-3	テーマ3 地域林業政策	資料2-4	テーマ4 イノベーションエコシステム	資料2-5	テーマ5 知的財産	資料3	農林水産省地球温暖化対策計画について	資料4	今後のスケジュールについて
資料1	北海道視察報告																
資料2-1	テーマ1 新技術/総合戦略																
資料2-2	テーマ2 機械開発																
資料2-3	テーマ3 地域林業政策																
資料2-4	テーマ4 イノベーションエコシステム																
資料2-5	テーマ5 知的財産																
資料3	農林水産省地球温暖化対策計画について																
資料4	今後のスケジュールについて																

## 1. 北海道視察報告について

※事務局から説明

## 2. テーマ別の調査方針について

### (1) 新技術/総合戦略

- 技術の普及においても森ハブが有効に機能し、普及が進んでいく中で、経済性は切り離せない論点である。
- 補助金の有無も普及の面では考えていく必要があるのではないか。
- 普及を目指すのであれば、事業者のニーズ喚起の支援策が必要ではないか。
- 実用化から普及に至ることはそもそも簡単ではない。特に現場目線の声が反映された開発であるか、という目線が重要。
- 研究・開発の部分にも現場の声の反映が必要。
- 現場側のニーズの中で、メーカー・技術者側がビジネスにできそうなものを拾っていくことが有効な開発につながるのではないか。
- いろいろな意見があるので收拾させていくためにも国の立ち位置の明確化は必要である。

### (2) 機械開発

- シナリオをある程度考えた上で分析し、実際にどのように実用化していくかを検討すると、内容がより充実すると思う。現場や有識者の意見を交えながら進めて欲しい。
- ニーズとシーズのマッチング機能を、森ハブが担うということであれば、システム上でマッチングをするのではなく、シーズ・ニーズをマッチングする優秀なプロデューサーが必要で、リアルのプロランナーやビジネス化に結び付ける人材がいることが重要。

### (3) 地域林業政策

- 地域林業政策で扱う事例については、“日本で一地域の製品開発と同時に物流システムも一体的に考えている企業の活動をとり上げ、標準化すれば他地域へ横展開できる可能性のある事例を提示し、日本が誇れる産業の形成ができるか”という目線で見ている。個別の事業が成功するかどうかというより、日本の林業や木材産業全体をどのように考えていくかを考えていくべきである。
- なぜ参考事例として取り上げるか、選考の理由も明確化したほうがよい。ビジネスモデルのきっかけ、流通、体制の整備などを述べられるとよい。マーケティング目線、製造技術、コストなども有意義な情報ではないか。
- 市場に対してどのように国産木材を出していくのかの目線が欠けているといけない。日本の資源をどのように使っていくか、30年後に向け、今どのような木を植えていくべきか、普遍的な技術はなにか、等、長期的な目線で検討を行っていくべき。

### (4) イノベーションエコシステム

- 明確なテーマを決めた方がいいのではないか。例えば温暖化など、具体的なテーマを決めた上で進めた方がよい。
- 日本の林業のイノベーションエコシステムは、各山間地域がメインになってくると思う。「ビジネス

実装支援の展開」が特に支援が必要になるフェーズで、森ハブに最も期待するところ。重点的に取り組む体制が森ハブで構築できればと思う。

- モデルをいくつか想定して、あり方を検討した方がよい。日本にある個別事例について、いかに拡充、横展開できるのかということを検討した方がよい。
- 情報を提供できるプラットフォームを作っても、成功はしない。思いの強い人で中心的な役割の人材が1名では難しく、3名程度は必要だろう。

#### (5) 知的財産

- 本テーマで知財を調べ、どのように役立てていくかを考えたときのゴールとしては、日本の強みを明確化し展開していくためにはどのような施策が必要か検討することだと考える。
- ビジネスで勝てる特許を取得する、という目線が日本に欠けている。特に林業分野では川上に行くほど、その目線が欠けている。
- 共同研究から知財の申請があるが、ほとんどが共願であり、多くが活用されていない。使われない知財が多いのは、必要性が検討されていない知財出願が多いためであり、なにが有効かつ取得の必要がある知的財産であるか示されていないためである。
- 日本の知的財産戦略にはブランドの目線が欠けている。

### 3. 話題提供

#### (1) 農林水産省地球温暖化対策計画について

※林野庁から説明

以上